

掛西学園に新しい保育園が加わりました！  
**すずかけっこ保育園**



平成28年4月1日、公私連携型保育所として掛川市立第二小学校の西側に開園しました。

0歳児から2歳児までの未満児園として、子どもたち一人ひとりに寄り添い、子どもたちの気持ちに応えながら、子どもたちの笑顔で遊びが満喫できる保育園です。



この「のぼり旗」は、平成23年に西中のPTA活動の中で作成されました。挨拶をすることが苦手な子供たちを、どうしたら挨拶ができる人に育てられるだろうかと考えて作られました。そして、それが掛西学園に引き継がれ、掛西学園の「のぼり旗」として活用されています。

学校の先生方から聞かれる言葉の一つに、「子供たちが挨拶ができない」があります。そもそも挨拶はなぜ必要なのでしょう？ある説明には、「挨拶には自分の心をひらくという大切な意味があり『あなたの敵ではありません』という合図であり、人と人がコミュニケーションを取るための入り口である。」とあります。たしかに、挨拶をして挨拶が返ってこない、嫌われているのかもしれないと感じてしまい、それ以降はコミュニケーションが取りにくくなります。ただ、挨拶ができないのは子供たちだけでしょうか？大人たちは挨拶ができていますか？

挨拶するには照れくささもありません。こののぼり旗が少しでもその照れくささを取り除いてくれて、挨拶ができる学校、挨拶ができる地域になってくれたら嬉しいです。

(統括コーディネーター・榎本昌博)

どうして挨拶ができないんだろう・・・？

**掛西学園だより**

平成29年  
3月発行  
No.07

地域ぐるみで子どもを育てましょう！



掛西学園子ども育成支援協議会について

統括コーディネーター  
(西中・曾我小担当)  
**榎本昌博**

地域コーディネーター  
(中央小学区担当)  
**佐野義昭**

地域コーディネーター  
(掛二小学区担当)  
**高安郁子**

■掛西学園発足

平成25年8月23日に掛西学園子ども育成支援協議会が発足しました。

■対象学校区と園・学校

掛川市立西中学校区 (西中・中央小・掛川第二小・曾我小・聖マリア保育園・くるみ幼稚園・さやのもり幼保園・すずかけっこ保育園)

■協議会構成メンバー

第三地区区長会長・第四地区区長会長・第五地区区長会長・西南郷地区区長会長・曾我地区区長会長・各まちづくり協議会会長・中央センター長・第五地区センター長・西南郷地区センター長・曾我地区センター長・西中学校長・中央小学校長・掛川第二小学校長・曾我小校長・聖マリア保育園園長・くるみ幼稚園園長・さやのもり幼稚園園長・さやのもり保育園園長・すずかけっこ保育園園長・幼保園PTA代表・各小学校PTA代表・中学校PTA代表・保護司代表・社会教育委員・主任児童委員・報徳社代表・商工会議所青年部・地域コーディネーター

■活動内容

学校や園からの要望と要請を受けて、地域コーディネーターを通して地域からボランティアとして協力して下さる方を募ります。また、各学校や各園との交流を深め地域における一貫教育を目指します。

■事務局

掛川市立西中学校  
掛川市下俣1007-1  
Tel. 0537-22-7258



ホームページ <http://kakenishi.jpn.org/>  
メール [kakenishigakuen@gmail.com](mailto:kakenishigakuen@gmail.com)



各学校・幼保園の先生同士の交流も盛ん！

プロゴルファー  
**藤田寛之さん**



昨年11月28日に掛二小6年生のキャリア教育として、西中学区在住でプロゴルファーの藤田寛之さん(葛城ゴルフ倶楽部所属)を講師にお迎えしました。藤田さんがゴルフと出会ったのは小学6年生の時。友だちのゴルフクラブでボールを打った時の爽快感が忘れられず、高校生になりプロの夢を描くようになり本格的にゴルフを始められました。賞金王にも輝き、マスターズにも出場された藤田さんですが、挫折を経験したり、身長が低いことから成功しないと言われたときに、どんなときにも両親が自分を信じて応援してくれたことが励みになったそうです。そんな藤田さんは子供たちに向けて、「何が足りないのか」「なぜうまくいかないのか」と自分に向き合うことが大切で、それが成長の秘訣と語られました。



# 講演会・知っておきたい身近に迫る薬物の恐ろしさ！



静岡県薬物乱用防止指導員  
杉山宏幸さん

12月2日(金)西中体育館にて、「身近に迫る薬物の恐ろしさ！」と題して、静岡県薬物乱用防止指導員、杉山宏幸さんの講演会がありました。

私たちにとって薬物の恐ろしさと言われてもその実態はよくわかりません。しかし、杉山さんのお話では、当事者がそれを世間に話しをすることではありませんので、実態はなかなか知られなくても、むかしに比べ実例は増えているということです。それは、はっきり麻薬、覚醒剤と認識していなくても、インターネットなどで、やせ薬・体調を整える薬等の理由で飲み始める場合があるようです。

最も恐ろしいことは、一旦飲み始めると止める事が非常に困難なことで、何よりも脳が犯されていく恐ろしさです。立ち直るには、周りの人の大きな協力が必要になり、理屈だけで止めさせる事は無理のようです。従って、世間が薬物の恐ろしさや社会復帰の困難さに理解を示すことが、何よりも大切なことであると強調されていました。

## キャリア教育 2

掛二小6年生のキャリア教育第二弾は、中東遠総合医療センター・リハビリテーション科勤務の理学療法士・秋山武彦さんをお迎えして、12月13日に行われました。リハビリテーション科の様子や、秋山さんが理学療法士を選んだきっかけ等をプロジェクターを使って、わかりやすくお話していただきました。後半は、ちょっとした手当てで、しっかり上がらなかった腕が上がるようになったり、正しい姿勢やはっきりした発声のあいさつ一つでパワーアップできる等の体験をさせてもらいました。



理学療法士  
秋山武彦さん

# 地域の皆さんの力によって 支えられています！

